

平成 29 年度 事業報告書

I 概要

「高岡市総合計画第3次基本計画」では、「豊かな自然と歴史・文化にまつまれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」というまちの将来像に向け、「歴史・文化」分野において、めざすまちの姿を「暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている」まちを掲げており、これを踏まえ事業団では、地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成に向け取り組んだ。また、各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術・文化の振興に貢献できるよう努めた。

○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

今年度は、万葉歴史館・美術館・博物館・市民会館・青年の家・ミュゼふくおかカメラ館・動物園の7施設の第4次指定管理協定期間（平成29年度～33年度）の初年度で、平成28年度更新した二上まなび交流館（平成28年度～32年度）を含め計8施設の管理運営を行った。また、藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーについては、引き続き業務を受託した。

各文化施設等が利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った施設管理と事業展開に努めた。

○ 文化振興事業の展開

市の文化振興施策の方向を踏まえ、質の高い舞台芸術の創造事業や市民の芸術文化への関心を高める事業、市民ニーズに応える事業などを展開した。

万葉歴史館では、大伴家持生誕1300年記念事業として、春の特別企画展「越中国府1300年」、秋の特別企画展「家持が見た薬草」、2017高岡万葉セミナー「大伴家持歌をよむ I」、学習講座、万葉衣装の着付け体験等を開催した。越中国守として赴任し、5年間の在任中に223首ものすぐれた歌を詠んだ大伴家持と越中万葉を紹介する万葉歴史館の催しに、市民や万葉愛好者等が数多く来館した。

美術館では、6～7月に「花森安治の仕事—デザインする手、編集長の眼」、8月～9月に「工芸の躍動—東京国立近代美術館工芸館名品展」、9月～10月に「大伴家持生誕1300年記念『家持の時代』展」、11月に国際北陸工芸サミット関連事業として「高岡に開く工芸の華」および「U-50 国際北陸工芸アワード ファイナリスト作品展」を開催した。また、3月からは「THE ドラえもん展 TAKAOKA 2018」を開催した。恒例の展覧会としての「高岡市民美術展」、「日本伝統工芸富山展」、「クリエイティブ・たかおか ～未来に輝く高岡市児童生徒作品展～」のほか、当館のコレクション展示として「コレクション展 工芸への誘い2017—高岡の金工・漆芸」を企画展示室で開催した。

博物館では、7月～10月に特別展「農民魂をもつ大学者 五十嵐篤好」を、続けて11月に企画展「黒部川開発100年記念写真展」～高峰讓吉と山田^{ゆたか}脩～、12月～1月に企画展「高峰讓吉パネル展」を開催した。また「お宝コーナー」展（4回）や館蔵品展「昔の道具とくらし」のほか、郷土学習講座（全3講）や古文書講座（全6講）、屋上開放や呈茶の会などの各種イベントも開催し、多くの方々に来館・受講いただき、好評を得ることができた。

市民会館では大伴家持生誕1300年を記念し、五環の森プロジェクト「万葉であそぼ。」(3年目)、10月にはオーケストラ公演「MANYO-ARPEGGIO／万葉アルペジオー過去・現在・未来」を開催した。また新規事業「天才たちと何できる？」では子どもたちを中心に6月には吹奏楽、9月にはダンスによるワークショップに取り組んだ。さらにブラスの響と題し、9月に大学吹奏楽の最高峰「龍谷大学吹奏楽部」を招聘した特別演奏会を開催し、約400名による地元学校吹奏楽部員との合同合奏など圧巻のステージで満席の来場者を魅了した。

カメラ館では、4～6月に「水谷章人展」でスポーツ報道写真を中心に、厳選されたアスリートの美しき瞬間や肉体美の力強さを紹介した。6～7月は、世界遺産の撮影をライフワークとする写真家・富井義夫による「地球への讃歌」を開催した。7～10月には、アースフォトグラファーとして高く評価されている写真家・高砂淳二による「Dear Earth」を開催した。また「鳥飼祥恵展」では人間味に溢れたドキュメンタリー作品を展示し、「市橋織江展」では、独特の視点と色彩感覚でプラハの情景を表現した作品を展示した。

II 各施設の事業内容

1 事務局（文化振興）事業

事務局では、「第47回高岡市芸術祭」(期間：10月28日から11月11日まで)を高岡市芸術文化団体協議会(邦楽、洋楽、華道、茶道)及び高岡市美術作家連盟との協働により開催した。また自主事業活動として市内小学校へのアウトリーチ活動「出張公演・出前講座」を年間14回開催した。また、7月には新規事業「夏のわくわくワークショップ」を開催し、伝統と格式ある芸能の世界を次世代に繋ぐための取り組みを積極的に行った。9月には邦楽部会日舞部門による「青少年わかば公演」を継続開催し、若い芽の育成を図った。

2 万葉歴史館事業

万葉歴史館では、大伴家持生誕1300年記念事業として、万葉歌人・大伴家持や越中万葉、『万葉集』をテーマとした展示や学習講座等を開催し、越中万葉の普及と高岡市の「万葉のふるさとづくり」に努めた。

企画展示は、前年度に引き続き第6回企画展「越中国と万葉集」を開催した。春の特別企画展「越中国府1300年」では、越中国府で詠まれた歌を中心に、越中国府の1300年を紹介した。秋の特別企画展「家持が見た薬草」では、万葉植物の「生薬」という実用面にスポットを当て、大伴家持が歌に詠んだ万葉植物を紹介した。秋の特別企画展にあわせて記念講演会[講師 小松 かつ子(富山大学 和漢医薬学総合研究所 教授)]や、関連イベント・万葉衣装の着付け体験を開催し、幅広い年代の来館者が万葉びとの心に近づけた。特別展示「万葉のふるさと高岡フォトコンテスト入賞作品展」では、「大伴家持が歌に詠んだ植物」をテーマに募集した作品の中から入賞作を中心に展示した。

教育普及事業では、例年実施している高岡万葉セミナーを「大伴家持歌をよむⅠ」と題して開講した。学習講座は、「館長講座『日めくり万葉集』を読む」、「万葉集をよむ」、「古代への招待」、「大伴家持とともに」、「越中名歌に親しむーはじめての万葉集ー」、ウイング・ウイング高岡を会場とした出前講座「はじめての家持」を前年度に引き続き開講した。平成29年度は、新たに高岡市ふくおか総合文化センター(Uホール)を会場に出前講座「はじめての越中万葉」を開講した。あわせて臨地研修講座の「第5回越中

万葉ウォーク「富山市」、 「第3回歌枕を訪う―越前万葉の世界―」を開催した。また、富山大学での館長と研究員による万葉集に関する講義、学校移動展示「越中万葉パビリオン」、 「坂本信幸の越中万葉教室」を昨年度に引続き実施し、学生が『万葉集』に親んでもらえるように取り組んだ。

出版事業では、万葉歴史館の研究成果を紹介する『高岡市万葉歴史館紀要 第二十八号』、『高岡市万葉歴史館論集』18(『大伴家持歌をよむ I』)を出版した。

万葉故地ネットワーク事業では、越前市万葉館を会場に、万葉館特別展・高岡市万葉歴史館故地交流展「越中万葉の春と夏」、「越中万葉の秋と冬」を開催した。

5月の連休期間中に開催した万葉衣装の着付け体験は、幅広い層の来館者が万葉衣装を着て万葉歌人になりきり好評であった。

高岡市の大伴家持生誕1300年記念事業の北陸三都市連携公演「大伴家持・生誕一三〇〇年記念・演劇「大伴家持 剣に歌に、夢が翔ぶ！」(会場 高岡市民会館 他全国4都市公演)や、「大伴家持生誕1300年記念セレモニー」(会場 勝興寺)等には、万葉歴史館も協力し、市民の万葉集や大伴家持を再評価する機運の高まりや、万葉のふるさと高岡の魅力づくりに貢献した。

万葉への魅力向上を期して、来館者に対しては、親しみやすくボランティア「和草」(説明員)が案内するとともに、学校や団体客等に対しては、研究員自らが案内を行った。

3 美術館事業

美術館では、郷土の美術・工芸の研究成果を収集・保存・展示に生かし、美術館活動の普及のために広範な教育活動を行っている。

平成29年度の企画展示は、6月から7月にかけて「花森安治の仕事―デザインする手、編集長の眼」を開催した。『暮しの手帖』初代編集長だった花森安治の、学生時代や戦時中の仕事にも着目しつつ、花森が全身全霊をかけて打ち込んだ出版活動を、ひとつの雑誌を超えた「運動」として捉え、多彩な仕事のなかからその思想を探る内容とした。

8月からは、「工芸の躍動―東京国立近代美術館工芸館名品展」を開催した。工芸を考えるキーワード(素材・装飾・民芸・伝統・機能・表現)をもとに、日本の近代工芸(明治―現代)の名品を展示して日本工芸の躍動する姿を示し、その美しさ、優れた技、芸術表現の見事さを紹介した。

9月から10月にかけては、「大伴家持生誕1300年記念『家持の時代』展」を開催し、『万葉集』の編纂者であり、代表的な歌人のひとりである大伴家持の生誕1300年を記念して、高岡市内で発掘された奈良時代の遺物をはじめ、家持の教養の背景にあった文化を今に伝える貴重な文化財など、国宝・重要文化財を含む資料を展示した。

11月には、文化庁と北陸三県が連携し、北陸の工芸の魅力を世界に発信していく広域的な催しとして「国際工芸サミット」が富山県で開催されたことから、この関連事業として2つの展覧会を開催した。「高岡に開く工芸の華」では、高岡ゆかりの工芸作品を、当館蔵を中心に、富山県立高岡工芸高等学校や高岡市立博物館からも借用して、計100点展示。借用作品9件のほか、当館への寄託作品9件も展示がかない、日ごろ展示機会の少ない木工、陶芸、染色も観覧していただくことができた。「U-50 国際北陸工芸アワード ファイナリスト作品展」では、富山県が主催した工芸コンクール「U-50 国際北陸工芸アワード」の最終審査対象作品6件と、6人のファイナリストがホスト企業と協同で制作した作品、加えて損保ジャパン日本興亜・特別賞を受賞した高岡の作家作品1件を展示した。最優秀賞、優秀賞、奨励賞という賞決定後の初のお披露目が当館で行われた。

また、3月からは「THE ドラえもん展 TAKAOKA 2018」を開催。「あなただけのドラえもん

んを作ってください」というテーマを、国内外で活躍する28組のアーティスト達が様々な手法で表現した作品が揃い、親子連れなど幅広い年齢層が訪れた。

恒例の展覧会としての「高岡市民美術展」、「日本伝統工芸富山展」、「高岡市美術作家連盟展」についても、各々地域の作家たちの成果を発表する場として好評を得た。

コレクション展示の「コレクション展 工芸への誘い 2017—高岡の金工・漆芸」では「ものづくり・デザイン科」に学ぶ児童・生徒たちへの教育普及を主な目的に、美術館所蔵の金工・漆芸の名作を展示し、地域の工芸の優れた技と歴史について紹介した。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでは、「オバケのQ太郎」や「ドラえもん」などの魅力的な名作を生み出した、日本を代表する漫画家藤子・F・不二雄氏の「ふるさと高岡」での足跡をたどりながら、まんが原画の展示を通して藤子・F・不二雄氏の「まんが」の原点や作品の楽しさを、国、県内外から来高された入館者に理解を深めた。

企画展示では、原画展「キテレツ大百科とものづくり」（全3期）、原画展F-GIRLSコレクション展(全二期)を開催した。

4 博物館事業

展示事業としては、昨年度から継続して5月まで館蔵品展「新資料展」を開催し、当館で近年新たに収蔵された資料を展示・紹介した。

常設展「高岡ものがたり」(通年開催)では、高岡の歴史・民俗・伝統産業の分かりやすい紹介に努め、団体見学への展示解説等を行った。常設展の内「お宝コーナー」では、「絵画にみる高岡の風景」、「昔の電話に触れてみよう!」、「秋を彩る—高岡ゆかりの漆器—」、「懐かしのレトロゲーム展」を順次開催した。

また、7月から開始した特別展「農民魂をもつ大学者 五十嵐篤好」では、学問や勸農に努めた郷土の偉人・五十嵐篤好の業績について展示・紹介した。11月からの「黒部川開発100年記念写真展 ～高峰譲吉と山田^{ゆたか}胖～」では、当館と黒部・宇奈月温泉開発100年事業実行委員会との共同開催により、未開の地に挑み、電源開発の基礎を築いた高峰譲吉と山田胖の功績ならびに黒部川の開発について展示・紹介した。12月からの企画展「高峰譲吉パネル展」では、前企画展が好評のため、高峰譲吉の生涯を分かりやすく紹介しているパネル展示部分のみを延長開催という形で紹介した。館蔵品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生き抜いた人々の暮らしぶりについて展示・紹介している(次年度5月6日まで開催予定)。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座(全3回)、古文書講座「初めての古文書教室」(全6講)を開催した。また、桜の時期に合わせた屋上開放「古城公園展望台」、呈茶の会「松聲庵—博物館で抹茶を楽しみませんか—」(春・秋)を開催した。そのほか、講師・委員の派遣協力なども行った。

資料収集・保存活動では、歴史・民俗・伝統産業にかかる資料の収集・保存に努めた。調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組んだ。また「高岡鑄物の製作用具及び製品」の重要有形民俗文化財指定にかかる当館収蔵の鑄物資料の調査を開始した。加えて、これまでに調査が終了した資料台帳の内容を精査し、当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、727件の資料情報をネット公開している。

5 市民会館事業

4月には北陸最大の新しい音楽祭「風と緑の楽都音楽祭」高岡公演として、音楽文化のまちづくり事業「TAKAOKA 春の音楽祭」を3日間にわたり6公演開催した。ベートーヴェンをテーマに地元若手音楽家や市民オーケストラ・雅楽団体が演奏を披露し、第一線

で活躍するアーティストとともに、市民の音楽活動が花開く音楽祭を開催した。

6月には未来へ繋ぐ舞台鑑賞事業として、24回目となる市内小学4年生児童を対象とした「10才のファーストコンサート」、10月には7回目となる市内小学6年生児童を対象とした「劇団四季～こころの劇場」を開催した。さらに6月と9月には高岡文化ストック⇒クラウド事業「天才たちと何できる？」と題した新規事業に取り組み、第1弾は指揮者・金聖響氏による吹奏楽公開クリニック、第2弾は舞踊家・森山開次氏によるダンスワークショップを開催し、第一線で活躍するアーティストと新しい「創造の場」を探った。

9月には昨年のお阪桐蔭に続く「ブラスの響」シリーズとして大学吹奏楽の最高峰・龍谷大学吹奏楽部を招聘し、圧巻のステージを披露した。合同合奏共演として地元吹奏楽部員の参加を募り、約400人による「宝島」合奏が実現した。また、高岡市出身・山口景子氏作曲「吹奏楽のための～万葉物語～」及び同氏編曲による高岡市民の歌「ふるさと高岡」吹奏楽版初演にも取り組み、満席の来場者に大きな感動を届けた。

さらに大伴家持生誕1300年記念として、五環の森プロジェクト事業（3年目）「万葉であそぼ。」を「五節句」をテーマに、市民クルーと万葉歴史館、市民会館共同企画となるワークショップや講座、コンサートを展開した。また10月には音楽文化のまちづくり事業「TAKAOKA 未来クリエーション『万葉アルペジオ』過去・現在・未来」を開催し、オーケストラと俳優・高橋克典氏の朗読及び市民合唱団によるステージに取り組み、家持の生涯と名歌を全国へと発信した。特に家持の長歌を混声組曲として作曲された「大伴家持の三つの歌」をオーケストラ版にアレンジし、合唱団80人が7月の結団式より15回の練習を重ねて登壇した。朗読台本制作及び合唱団員への歌詞解説は新谷秀夫万葉歴史館学芸課長が行い、指揮者、朗読者、台本制作者3人による対談も好評を博した。

ホール活性化事業では当館ホールサポーターの会「パープル」が継続する「サロンコンサート」を10回開催、197回目を迎えた。休館後の197回目は生涯学習センター1階交流スペースに会場を変更し、市民会館ロビーピアノを持ち込んだピアノコンサートとして開催した。7月・12月にはコンサートピアノ・スタインウェイによる演奏体験も実施。

6 青年の家事業

心身ともに健全な育成を図るため、生涯学習の一環として、「文化教室」・「現代教養講座」・「交流支援事業」を実施した。

「文化教室」では、着付け及びいけばな、茶道、水彩画、ペン習字、ヴィオラ・大正琴、二胡、引き締め体操とストレッチ、心身リフレッシュ体操（3B体操）教室の9教室を開講した。「現代教養講座」では、初心者を対象に中国語及び韓国語の教室を、外国人講師を迎えて開講した。また、「交流支援事業」として、スポーツ吹矢と太極拳教室の2教室を開催し交流を図った。

7 ミュゼふくおかカメラ館事業

4月～6月は、水谷章人スポーツ報道写真展を開催した。各スポーツ競技の世界選手権を中心に、アスリートの美しき瞬間や肉体美の力強さを紹介した。6月～7月は、世界遺産の撮影をライフワークとする写真家・富井義夫による「地球への讃歌」を開催した。世界中に点在する多彩な文化遺産を楽しむと共に高岡御車山会館と連携し、郷土の文化を顧みる機会を提唱した。7月～9月は、高砂淳二写真展を開催し、アースフォトグラファーの視点から捉えた地球の美しさと温かさを紹介した。11月からは、女性写真家として注目される市橋織江写真展を開催し、日常にひそむ街の美しさを捉える感性の大切さが実感できる展示となった。

カメラコレクション展示事業では、「カメラのなまえ!」「デビュー! NEW コレクション!!」を開催し、カメラの名称にまつわるエピソードや開発の歴史について紹介し、ユ

一モアと解りやすさに重点を定める展示に努めた。

資料整備事業では、カメラ整理ボランティアとの協力のもと、収蔵資料の整理・データ化を継続して実施している。

教育普及事業では、写真家によるギャラリートークや関連イベント、館長の写真教室、フォトコンテスト審査派遣に加え、「ニッコールフォトコンテスト写真展」、「ワンダーフォト写真展」を実施した。県内の写真家を紹介する「トリプルAポケット」では、鳥飼祥恵写真展(高岡市出身)を開催し、ドキュメンタリー作品の優しさを示す機会となった。

8 古城公園動物園事業

動物園では飼育展示のほか、ふれあい広場、動物園まつり、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

「ふれあい広場」は、ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができるもので、来園者から好評を得ている。

また、出前講座「命の尊さ」を主題として、小学校において児童への理解を深めた。

レクリエーション施設としての機能はもとより、情操教育の場および環境保全への貢献のために、動物愛護の啓発や情報発信、種の保存に努めた。

9 二上まなび交流館事業

主催事業として、二上山の自然に触れる「二上山を楽しもう」を春、秋に実施したほか、野外料理を満喫する「野外料理を楽しもう」や、高岡市で実施されているものづくり・デザイン科に備える「ものづくり体験クラブ」など、多彩な事業を行った。

県委託事業として、異年齢生活体験推進事業「夏合宿(小学4～6年生対象)」「なかよし合宿(小学1～3年生対象)」を実施し、異年齢児童による共同宿泊体験事業を行った。

通年のクラブ活動事業として「まなびっこクラブ」を開講し、ペン習字、茶道、箏、科学工作、パソコン、卓球の6クラブを実施した。技能の向上と共にクラブ員同士の友情を深めた。

「高岡市児童アイデア工作展・高岡市未来の科学の夢絵画展」を9月にウイング・ウイング高岡1階交流スペースで開催した。応募作品はそれぞれ200点と131点で、優秀作35点と20点を、「富山県発明とくふう展・富山県未来の科学の夢絵画展」に出品した。

10月には、当館に事務局を有する外部団体(高岡市児童クラブ連合会、ボーイスカウト高岡地区協議会、ガールスカウト高岡地区協議会)と共同で「まなびっこフェスティバル」を開催し、約500人の来場者があった。

この他、宿泊学習や親子活動などの学校教育団体、クラブ合宿やボーイスカウト、ガールスカウト活動などの社会教育団体、職員研修などの企業団体等、多くの方々に様々な体験活動の場を提供した。

なお、まなび交流館(本館)における公益目的事業の利用は、主催事業や小・中学校宿泊学習、スポーツ少年団活動など252回で、利用人数は12,632人であった。収益目的事業の利用は、研修室等の一般への貸与など32回で、利用人数は659人であった。また、二上山キャンプ場における利用人数は2,879人であった。

Ⅲ 評議員会に関する事項

1 審議内容

(1) 第12回評議員会 平成29年5月31日開催

報告第1号 平成28年度事業報告について

承認

議案第1号 平成28年度決算の承認について

可決

- (2) 第13回評議員会 平成30年3月9日開催(書面によるみなし決議)
議案第2号 評議員選定委員(評議員)の選任について 可決
- (3) 第14回評議員会 平成30年3月26日開催(書面によるみなし決議)
議案第3号 理事の選任について 可決
議案第4号 監事の選任について 可決

2 評議員の異動状況

平成30年3月31日 評議員 鍋谷 武 辞任

IV 理事会に関する事項

1 審議内容

- (1) 第31回理事会 平成29年5月16日開催
議案第1号 平成28年度事業報告の承認について 可決
議案第2号 平成28年度決算の承認について 可決
議案第3号 第12回評議員会の招集について 可決
- (2) 第32回理事会 平成29年6月26日開催(書面によるみなし決議)
議案第4号 平成29年度補正予算(第1号)の承認について 可決
- (3) 第33回理事会 平成29年9月20日開催(書面によるみなし決議)
議案第5号 平成29年度補正予算(第2号)の承認について 可決
- (4) 第34回理事会 平成30年3月5日開催(書面によるみなし決議)
議案第6号 第13回評議員会への議案提出について 可決
議案第7号 評議員選定委員(外部委員)の選任について 可決
- (5) 第35回理事会 平成30年3月23日開催(書面によるみなし決議)
議案第8号 第14回評議員会への議案提出について 可決
- (6) 第36回理事会 平成30年3月27日開催
議案第9号 平成30年度事業計画の承認について 可決
議案第10号 平成30年度予算の承認について 可決
議案第11号 主たる事務所の移転について 可決
議案第12号 平成29年度補正予算(第3号)の承認について 可決
報告第1号 高岡市公の施設に係る指定管理者の指定の期間の変更について(高岡市民会館) 承認

2 理事、監事の異動状況

- (1) 平成29年4月1日 理事 二塚 英克 就任
監事 森田 充晴 就任
- (2) 平成30年3月31日 専務理事 寺嶋 哲 辞任
理事 二塚 英克 辞任
監事 森田 充晴 辞任